



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和6年4月8日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和6年度 第1号

鈴谷小Webページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



3年目の「この指とまれ」

校長 中田 清人

鴻沼川沿いの桜はなんと美しいのでしょうか。例年よりも少し開花が遅れた桜は、丁度今頃が見頃です。春休み中の校庭に遊ぶ子ども達は、実に嬉しそうです。そんな光景を校長室の窓から眺めながら、本校で迎える3年目となる今、私は、改めてどのような学校を創りたいのか、どのような子ども達を育てたいのかを初心に帰るつもりで自問しています。

私の教育信条は、「私の教え子の幸せが、私の幸せである」というものです。これは、毎年この「鈴谷小だより」で綴ってきたことですが、幸せの形も多様化している現代において、全ての子ども達の幸せを具現化できるのかという命題は、螻蛄（とうろう）の斧の如き無謀なことではないかと弱気な自分が囁くこともあります。

いや、そんなことはない。幸せとは、誰かの手で与えられるものではなく、自らの手で勝ち取っていくものだと思います。私たちの使命は、そのような人間を創ること、育てることだと思うのです。

このように改めて考えるに至ったのは、先月の大相撲春場所のおかげかもしれません。新入幕の尊富士（たけるふじ）が破竹の11連勝の後、13勝2敗で見事優勝しました。新入幕の力士が優勝したのは、なんと110年ぶりだそうです。春場所の間中、私はこの大銀杏（おおいちょう）も結っていない24歳の若者に惹きつけられ通しでした。

快進撃を続ける中、尊富士は14日目の一番で足を痛めてしまいます。誰もが、千秋楽（15日目の最終日）の出場は難しいのではないかと思ったことでしょうか。ところが、翌最終日の土俵には尊富士が立っているではありませんか。どことなく、足を引きずっているようにも見えます。しかし、最後の相手に向かっていく尊富士は勇猛果敢でした。

報道によれば、師匠の伊勢ヶ浜親方は「今後の相撲人生にも影響する。」と休場に理解を示していたそうです。しかし、休場中で兄弟子の横綱・照ノ富士の言葉に勇気づけられた尊富士は、千秋楽の一番で勝ち、自ら優勝を勝ち取りました。記録にも残りましたが、彼が言うように「記憶に残る」相撲を見せることができたのではないかと思います。

大相撲は、たった一人で相手と戦う国技ですが、私はこのエピソードから、戦うまでには本人の稽古、努力はもとより、多くの人々の支えや期待があること、また、その期待に応えよう、恩返しをしようとする力士本人の強い気持ちがあることを知りました。人間は一人じゃない、一人では生きていくことはできない。そんなシンプルで当たり前のことが、勝負の世界を通して見せられることで、より一層大きな価値を私たちに教えてくれる気がします。尊富士はケガをして痛い思いをしたかもしれませんが、多くの人たちの期待に応えられ、活躍できたことで幸せな気持ちでしょう。また、尊富士を支える人たちも、また、幸せな気持ちでいるに違いありません。

私たちは、こうした人間を創りたいのです。育てたいのです。そうですね。

今回、私は「私たち」という一人称複数形を多く使いました。「私たち」とは、つまり、教職員であり、保護者・家族の皆様、地域の皆様のことでもあります。思いは一つです。

お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。共に手を携え、子ども達を育ててまいります。今年度もどうぞ、よろしく願いいたします。